

初夏

山星の青き空より夏に入る

夕空にまぎれんとして余花白し

ひびきよき夏のはじめの谷の音

手になじむ備前の急須新茶汲む

新茶汲むいのちと出合ひたるごとく

木々郎

五月 臯月 雑詠

子供の日 雲も未熟の 子入道

鯉のぼり 泳ぐはどこと 団地窓

卯の花の 匂いはいずこと 街のなか

武者人形 武者は武者でも 喧嘩なし

つつじ萌え いろとりどりに 木場公園

菖蒲湯は 邪気払いて 梅雨の前

細田安治